

令和2年度第1回下関市子ども・子育て審議会 会議録

日 時	令和2年10月2日（金） 14：00～15：30	場 所	下関市商工業振興センター 3階第2研修室
委 員	横山眞佐子委員、宮川雅美委員、梶山正迪委員、山本吉幸委員、中川浩一委員、 今村方子委員、山本正俊委員、池内賢二委員、若松佐織委員、河内奈穂委員、 登根里美委員、吉川英美委員、池田理江委員		
事務局	林部長、三好部次長、 嶋津子育て政策課長、大谷課長補佐、岡崎主査、森脇係長 東矢幼児保育課長、丹嶋主幹、白石課長補佐、齋藤課長補佐、濱野係長 柳生こども家庭支援課長、小田課長補佐、守田主査、坂本主査 高井健康推進課長、金子課長補佐		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・“For Kids”プラン2020（抜粋） ・“For Kids”プラン2020 令和2年度実施計画 ・“For Kids”プラン2015 実施状況 		

事務局 （大谷補佐）	定刻となりましたので、ただいまから子ども・子育て審議会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。会議に先立ちまして、退職に伴い交代となりました委員さんがいらっしゃいますので、新たに就任される委員さんを辞令の交付とともにご紹介いたします。
	【辞令交付及び紹介】
事務局 （大谷補佐）	<p>以上で新委員の辞令交付及び紹介は終了です。なお、任期は令和3年8月20日までとなっています。</p> <p>それでは、改めまして令和2年度第1回子ども・子育て審議会を開催いたします。開会にあたり、こども未来部部长 林からご挨拶申し上げます。</p>
林こども未来部長	<p>本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。子ども・子育て審議会をもっと早く開催したかったのですが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、今日になったわけですけれども、緊急事態宣言があり、今は正しく恐れながら経済の回復をとというのが定理となっております。当初から子どもに直接対応しないといけない、面談しないといけない、世話をしないといけない方々、ご心痛ご苦労されたかと思います。感謝でございます。そして経済を回している方々、大変厳しい状況だかと思います。一緒に負けないでやっていきたいと心から思っております。今、何が起きているのかというのが、一番子ども・子育て審議会の中で大切なことだろうと思います。皆様、日々の仕事の中で感じる、思われていることを今日は審議会の中でぜひお話していただきたいなと思います。だいたい皆こう思うのにそうじゃない、ということもあります。例えば、市役所で言えば、国がひとり親世帯の方に第1子5万円、第2子以降3万円をお渡しするというのがあり、自動的にお渡しするようにしていたのですが、収入が下がった方は申請すればもう一回5万円もらえますよ、</p>

	<p>というのがあるんですけども、8月に児童扶養手当の現況届というのがございます。そこに来られた方に「こういう制度があつて申請されませんか」とご案内をしても「いや、いいです。収入は下がっていません」と。来年の2月まで申請できるので、余裕を持っていらっしゃるのかもしれませんが、ひとり親の方は苦しいのではないかなと思っておりましたけれども、全体の一割くらいの方しか申請されないという、私の方では意外な感じのものでございました。皆様も意外なことや感じたところなどを、今日は“For Kids”プランの事業のお話をさせていただきますが、折に触れて情報共有できたらと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>それでは、会長、進行をお願いいたします。</p>
会長	<p>皆さん、こんにちは。数か月大変な間をなんとか乗り越えて、それぞれの立場でご苦労なさっていたのではないかと思います。この審議会もなかなか開催というのが、人が集まるのが大変だなというのがあるかもしれませんが、おっしゃったように正しく恐れながら前向きに取り組んでいかないと、子どもというのは常に未来に向かって、今日より明日というふうに生きている人たちをどうサポートするのかと考えたら、このまま私たちが恐れている場合じゃない。しかし何かがあつたら大変なので、そのこのところを考えながらある道を過ごすことが大事じゃないかなと思っています。本日こうやって審議会が開催できることをありがたいと思っています。</p> <p>ただいまから、令和2年度第1回下関市子ども・子育て審議会を始めます。皆さん、よろしく願いします。</p> <p>最初に事務局から本日の出席状況についてお願いいたします。</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>本日は、委員総数17人のうち、4名欠席で、13名の出席をいただいています。過半数の出席がありますので、下関市子ども・子育て審議会条例第6条第3項の規定により、会議が成立していることを報告します。</p>
会長	<p>本日の進行については、お手元の次第に沿って進めてまいります。会議は15時30分までの予定となっています。それでは、資料について事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>それでは、まず本日の配付資料について説明いたします。本日、配付してあります資料は、審議会次第、委員名簿、席表そして、“For Kids”プラン2020の5章、6章を抜粋した冊子、“For Kids”プラン2020 令和2年度実施計画、それから“For Kids”プラン2015 実施状況 となっております。お手元にはない方はいらっしゃるのでしょうか。</p>
会長	<p>それでは、最初の議事の“For Kids”プラン2020の実施事業について説明をお願いいたします。</p>
岡崎子育て政策	<p>【資料説明】</p>

課主査	
会長	ただいま事務局より説明がありました。数も多く多岐にわたっているので、今説明を受けただけではわからないという方もいらっしゃるかもしれません。それぞれご自分のご専門があるかと思いますので、ご意見・ご質問等ありましたらお願いします。
委員	特別支援に関してなんですが、今、特別支援学校は小学校からで、幼児はないんですよね。特別支援が必要な幼児さんが幼稚園でも保育園でも増え始めています。支援も大事ですけど、その前にそういう方を受け入れる場所、例えば発達センター等ありますが、満員という状況です。幡生に移られた施設で幼児さんのクラスも受け入れができるよう作っていただけるといいなと思いますが、そのあたりはどうでしょうか。
会長	制度として、例えば幼児さんに支援が必要と確定されると保育士さんを増やすことができるというのがありますか。
委員	補助はわずかです。
会長	制度としてどうすることもできないのでしょうか。
東矢幼児保育課長	最近、気になるお子様、障害をお持ちのお子様というのは年々増えています。集団生活が可能かどうかの判断を幼稚園では就園相談会というのを入園前の秋ごろに行い、保育園、こども園については、事前に見学等をしていただいています。園で対応が難しいお子さんについては、発達センターなどを使っていたきたいのですが、定員がいっぱいなので難しい状況です。お子さんにとっては園に通いながら通所、併用しながらなど方法はありますが、現実的に支援が必要なお子さんが増えていて、現場も混乱しています。幼稚園でも障害児指導員を別にあげておりますし、保育園では加配の保育士がいますが、マンツーマンで対応するお子さんもおれば、2、3人で見るお子さんもいて、マンパワーが必要であるので悩ましい問題です。何かあった時に責任をとるのは現場ですから、ある程度専門性を持った者が対応しないと事故につながることもあるので、慎重に対応しないといけないと思います。答えにならないかもしれませんが、今後も増えていくと思しますので、社会全体でそういったお子さんを支えられるように、課題として認識しております。
委員	こども発達センターは30人定員でして、希望者が多くて3、4年前からは38人の子どもたちが来てくれています。 月曜日から金曜日までは療育を行っていますが、今、来年度入りたいという子どもたちがすでに30人くらいいらっしゃって、先ほど話にでてきたようなお子さんはそこに入って来るかなと思いますが、保護者に勧めた時に、障害児認容に時間がかかったりとか、行ってダメだったらかいようなご希望をお持ちで、医師の診断を受けたり、私たちが療育の中で発達検査等を受けてもらった結果をお話するんですけど、なかなか受け入れられないというようなお子

	<p>さんなんじゃないかなと思います。今、私たちが受けることができるキャパが市の中で38人、とても少ない人数しか受けられないのですが、今、この中の事業にもありましたが、療育等支援事業というのがあり、うちの臨床心理士や言語聴覚士が幼稚園、保育園に出向きまして気になるお子さんの支援をさせていただいている上でご相談にのるといものがあります、全園回るのは難しく思うような支援ができていないなと思うんですが、私たちが幼稚園、保育園の先生たちと一緒に支援ができたらいいなと思います。</p>
会長	<p>支援センターができて30年くらいですか。</p>
委員	<p>平成7年なので、25年になります。</p>
会長	<p>それまでは下関になくて、親御さんたちは北九州市に行ったんですね。母親クラブの親や小児科の先生、皆さんたちが動かれて発達センターを作ることができ、下関の子は下関でみようねというふうになりましたけど、その次の一歩が出てないですよ。園に入られたお子さんをお持ちの親は、ただわがままなだけ、まだ小さいからと思って入れて、でもグレーゾーンの子もいるわけですよ。現場で見なくてはいけない先生方のご苦労と、発達センターにというふうになった時の誰がどうやってみるのかというのを含めて、下関の施策としては、子育てについて大事なこともかもしれない。少数派の人達が行きやすい場所が子育てにいい場所というふうに思いませんか。</p>
林子ども未来部長	<p>福祉部の話なのですが、数年前まで私のグループでしたのでお話しすると、障害児も障害者も通所サービスというのがございまして、それをどこまでやるのかというのを個人的には思います。今、障害児の通所サービスがどんどん伸びておりまして、北九州市は通所の事業所を制限します、できすぎですと。下関市はまだそこまでやっていないので、どんどん増えています。例えば、発達センターで専門職の方がいらっしゃるの、レベルは高いと思います。先ほどお話がありましたけれど、北九州市に行かなくていいと。下関市のこの手の診断というのは小児科の先生方が頑張ってくれているので、下関市は山口県の中でも恵まれていますよね。さらにどの程度まで目指すのかというのは、もう少し考えないといけないのかなと思います。通所の部分が伸びているというのが、中核市の中で見ればそうでもないというところなんです、負担のことも出てくるので、よく考えないといけない。ただなぜか、気になる子どもやグレーゾーンの子どもが増えていると。金原先生に「何で増えているんですか」と尋ねると、「うーん、どうかね」というところがあって、真面目に考えないといけないのは確かですが、財政的な負担の部分も考えないといけない。人を雇う、専門職の人を雇うとなると、伸びていただかないといけない、そして後輩も年がいったら指導してもらわないといけない。雇用はパートさんではできませんので、その辺もしっかり考えないと。作ったはいいが、魂入れずになってしまいすし、ご提案の部分はしっかりと受け止めて福祉部の方にお伝えさせ</p>

	<p>ていただきたいと思います。</p>
委員	<p>親からすると、子どもが病院で発達障害の診断を受けるとレッテルを張られて一生ついて回るから嫌だということがあるようです。発達センターの定員がいっぱいという話がありましたが、その前の段階で、学校に空き教室がありますよね。そこでみていただくという制度を作ったらどうですかね。</p>
委員	<p>子どもが自分の意志でお友達と楽しく過ごすには、自分の行動、考えを幼稚園・こども園・保育園という場所で少しずつ調整・修正しているんです。我々からみても特別支援が必要な子どもも受け入れています。子どもが自分の意志で修正することで身につけていきます。そういうつもりで我々も頑張りますので、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>先ほどのお話ですが、うちの子はまだ幼いから自制がきかないと半分思いながら、半分はレッテルを張られたくないという思いがあるかもしれませんが、受け入れようか、受け入れないか悩んでいる親御さんが多いと思います。そうやって迷っている親に、条件が難しいとか、経済的に難しいとかで手を差し伸べなかったら、いつまでたっても下関は本当にいいところだねと言ってもらえないと思います。下関は子育てにいいところだねと市民に浸透していく、さらに他の市町村に広まるような、そうなるためには、かつて北九州市にしか療育センターがなくて、下関の人はみんな北九州市に行っていた。北九州市みたいになったらいいねと、そっちに引っ越した人も私は知っています。少し前の話ですが、特殊学級と言っていた時代に、下関は特殊学級が数えられるほどしかなかった。神奈川県の方からかわってきた人が、学校からすぐ連れていけると思ったが、そこは特殊学級がない学校だった。今、状況は違いますが、下関市にかわってきた人たちが「下関は本当によく手立てを講じてくれた」という小さな感想が出てきたら変わっていくと思います。姿勢としては、迷っている人たちに手を差し伸べることが私は子育てで大事なことだと思います。</p>
委員	<p>私のところは子育て支援センターをやっていますが、就園前の子どもたち、子育て親がやってくる場所です。その状況をお話しながら今の特別支援をどう考えるかということを書いてみたいと思います。明らかに特別支援が必要な子どもと、そうなる子どもと、いわゆるグレーかグレーじゃないかどう仕分けるかという意味で、親の育ちをどう考えるか。通常的生活スタイルが変わってきています。人間の脳が成熟するのに25年かかると言われているので、25年より早く結婚した大人は脳が成熟していないから、子どもとの関わりがうまくできません。その分在宅制度の場合にはおじいちゃんおばあちゃんがサポートしたり、地域がサポートしたりというのがありました。ところが今の時代はそれぞれの家庭は核家族が中心で、個が基本ですよね。多くの目でその子どもを見る視点がありません。地域間の事例ですが、お母さんは元保育園の先生だったのですが、生まれた子は障害児に違いないと思いこんでいて、4</p>

	<p>か月でそういう機関に連れて行って、「発達障害らしいですね」から逃れられないんですよ。どうやって相談したかと言うと、とにかく聞く以外にないということです。何がそう言わせているかというのをケアする、親に対するマンツーマンの手当がこれだけ必要な人がいなかったというくらいある意味有名になりました。何日か前の新聞には、虐待よりも育児放棄が上回るなどの事例が出てきていましたから、地域で社会を育てる以外にないんじゃないかと思っています。そういう現実があるということをふまえながら、障害児をサポートするには地域にどんな手立てがあるのか、それぞれ専門の療育で情報を共有できる場所、ネウボラのような長期的に核家族をサポートできるようなシステムあればいいなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今のお話にプラスしていいですか。今、核家族が多い中で、おじいちゃん、おばあちゃんに相談するというのがなかなかできません。だから、この施策の中でおじいちゃん、おばあちゃんとお父さん、お母さんを上手に繋ぐ、そういう施策があってもいいかなと感じました。おじいちゃん、おばあちゃんは素晴らしい経験を持っておられます。それを子育てに生かすのも手ではないかと思いました。</p>
<p>副会長</p>	<p>以前、ショートステイ、トワイライトステイは国の補助であるという説明がありましたが、先日「子育てママもリフレッシュ、一時預かりサービスを」という記事が毎日新聞に掲載されていました。10月1日から稼働するとありますが、どこかの施設でもうされているのでしょうか。内容を詳しくお聞きできますか。</p>
<p>嶋津子育て政策課長</p>	<p>ショートステイは保護者の出張、冠婚葬祭等で、トワイライトステイは保護者の残業等で子どもを預けなければならなくなった時、市内のなかべ学院、太平学園で、預かってくれる事業をしていますが、両者とも養護施設なので、その余力の中でやってもらっているため、実際は余力がありません。国の補助も余力でやりなさいねという補助なので、1人預かってもうわずかな収入にしかありません。それで1人キャパを埋めてしまうくらいだったら、他に養護しないといけない子ども、児相から一時保護なりあるわけですね。そちらを優先したい思いがあるので、だんだん有名無実の事業になりつつあるわけです。私どものほうに、一晩でもいいから子どものストレスから解放されたいという声が届いていましたので、新ショート・トワイライトステイという、単市で事業を立ち上げましょうということでこの審議会でお話したかと思っています。今、お話しがあったように、毎日新聞に10月1日からスタートということで3、4月前に記事に出ましたし、NHKのニュースでも取り上げられました。でも10月1日が過ぎて今日が2日。結論から言うとスタートを切っていません。大きな問題が二つあって、24時間365日子どもをみようと思ったら、それなりの人員の体制をとらないといけません。つまり、8時間ずつみれば保育士3人用意しないといけない。もう一つは、市の予算として、はまる、はまらないの議論が起こりま</p>

	<p>した。ここまで何をやってきたかというところ、この予算の中でできるように最悪2歳未満をこの新ショート・トワイライトから切り捨ててしまおうか、という議論まで出てきました。正直見積を取る段階でのミスです。正式な結論はまだ出ていません。来週月曜日にこの件に関して市長と協議する予定です。1月1日から予定どおりの形で2歳未満を含めて新ショート・トワイライトでスタートを切る方向で市長と話したいと考えています。</p>
委員	<p>トワイライトステイについて、計画で言うと、令和6年度が730人ということになっていますが、今の話を聞くと本当にそれが可能なかどうか。今の人数がどれくらいで、だから令和2年度以降にこうもっていくということはある程度見越して、だから730人という人数にしているのか伺えますか。</p>
嶋津子育て政策課長	<p>今日のお話全般で思っていたことですが、市にこれだけの事業があることに驚かれた方もいらっしゃると思います。というのが、これだけの子ども・子育てに関する事業があるということが広く市民に知られていません。市の宣伝が下手なんです。知ってもらうことで救われるということが結構あると思います。新ショート・トワイライトもそうだと思います。なかなか利用できないという点も現状広まってしまっています。1月1日からスタートを切ろうとしている新ショート・トワイライトはしっかり人員を整えて受け入れを行うことが、広く市民に周知できれば、平成26年くらいまでだったと思いますが、リトルスターというのが市内に何か所かありました。それが辞めて撤退したときに、ショートステイだけでも年間1,000件以上の利用がありました。その実績からすれば、今の目標も不可能な数値ではない、むしろそれ以上になると思います。1日8時間あたりで預かったとしてもそれを1件とカウントしますので、24時間3回まわるわけで3人ですから、広く市民に知ってもらえれば、目標以上の成果が上げられると思います。</p>
委員	<p>今は広く周知されていないからというお話でしたが、実際残業等で困っている方がいると思いますが、国が働き方改革、そういったところで時間短縮、家庭に入って子育ても含めてそういうふうやっていくという流れの中で、あえて市がトワイライトステイ事業を大きくキャパを設けてお金を投入して人の配置もしてやっていこうということなので、それなりの説明が必要だと思いますし、企業側は働き方改革の中で子育てのことをどういうふう考えていらっしゃるかを代表の方が来られているので、お聞きできたらと思うのですが。</p>
委員	<p>企業全体がそうとは言いきれませんが、子育てのためにお休みを取る、残業を減らす、泊りを伴う出張は子どもが小さい間は行かなくてよいなど企業によって制度を整えているところもあります。企業側も人に働いてもらいたいというのありまして、環境を整えることは重要な課題となっているので、休みを取るからやめてくれというのはできない状況になっておりますので、企業</p>

	<p>の雇用する側は働きやすい環境を作るということに皆さん努力されていると思います。実際は上司の方とかになってくると思いますが、子どもがいるご家庭などかなり気にしていらっしゃる方もおられますので、会社の規模などによるかと思いますが、基本的には時代の流れにあった制度や環境づくりについて皆さん努力されていると思います。</p>
林こども未来部長	<p>あわせて質問させていただいていいですか。会社でリモートがどんどん進むと言われていますが、下関の会社でそういった動きはありますか。</p>
委員	<p>もちろんそういう業種の方もいらっしゃいますが、都心部と比べるとそういう環境は整っていないと思います。感染等の状況もあると思いますし、例えばインターネットを扱っている会社などは早い段階で在宅勤務の体制が整えやすいとは思いますが。まず、それぞれの家庭に設備が必要となると費用がかかってくる、その補助がどこまで出るかというのを考えられて設置されているので、今後進めていきたいと思っていいらっしゃる人はもちろんあると思いますが、現実的にそれが普及しているかという、下関市の中ではそこまで普及していないと思います。</p>
委員	<p>トワイライトステイがあまりにも令和6年度の目標が大きいので気になっています。先ほどの働き方改革のことがあるだけに、しっかりやっていこうという働きやすくなる企業側の思いと少し乖離があるような気がして、そういうところを聞いてみようかなと思うのと、もう一つは、テレビなどで福岡が「はじめてばこ」という、赤ちゃんが生まれれば福岡の子どもはみんなの子どもという思いでやっているのが、すごくいいなと思ひまして、下関の子どもというのを育てるのにいいなと思うような。たくさん施策があつてすごいとは思いますが、それがきちんと市民レベルに届いていない。それと象徴的なものがあればいいなと。みんなにわかりやすく、子育てを応援しようとか、私も子育てに挑戦しようとかいうふうになったらいいなと思います。最後に、27ページのところで保育所の利用定員が現状は2,138人で、令和6年度は1,710人になっています。この5年間で400人の子どもが減っていくわけですね。5年前も同じように400人子どもが減っていきました。小さな小学校1つなくなるくらいのペースで。福岡は間違いなく子どもが増えています。もちろん、福岡の宣伝もあるかと思いますが。宣伝も含めて下関は夢が描けるようなものにしていただけたらと思います。</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>事務局からですが、予定時刻となりましたので、もし委員の皆さんの方がよろしければというご確認を取っていただいていいですか。</p>
会長	<p>もう少しの間続けてもいいのなら幸いですし、時間がという方はご遠慮なくおっしゃってください。</p>
委員	<p>最初に事業を説明されたときに、細かくいろんな事業があつて体制が整っているなと思ったんですが、市民に広く周知されていないものがあるなと感じた</p>

	<p>ので、そのあたりを市民のみなさんに知っていただけると、より活用できるのではないかと思います。</p>
委員	<p>24ページから25ページのところですが、「子育てに配慮したまちづくりの推進」のところで、現状とか目標を書きにくい状況だとは思いますが、「公園整備の推進」というのがあります。現状をどうとらえて、目標をどう考えているのか。例えば25ページの「魅力ある公園への再整備事業」に「老朽化した遊具施設等を計画的に改修、更新することで、誰もが安心して安全に利用できる公園環境を提供する」の事業は現状、目標が入っていません。私の地区の公園でも、壊れた遊具に使用禁止が張ってあります。公園緑地課に聞いても、「直す予定はありません、撤去します」と。私の地区は子どもが多いところで、子どもが30人くらいいます。去年は10人以上の子どもが入学していますが、そういう子どもたちがいるので、ぜひ遊具をきちんとしてほしいと言っても、そういう回答でした。こういうふうに書いているということは、現状をどういうふうに捉えて、令和6年度の目標をどういうふうにしようとしているのか。そういうことがわかるといいなと思いました。</p> <p>もう一つは90ページですが、見方がよくわからないので。量の見込みと確保の内容、延べ利用人数とあるところで、量の見込みというのはこれだけの人がいるということですかね。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>これは、これだけの人が利用するだろうという、5章の方は、国が計算の仕方がある程度決めているので、それに従って計算して出したものです。それに対して、どれくらい確保していこうというのが、5章、90ページのところになります。90ページが一番上の数字でいくと、量の見込みとしては、少しずつ減っていますが、令和2年度だったら年間延べ利用者数が18,536人くらいいるだろうという計算になったと。それに対して、確保の内容としては、9,360人で、半分くらい頑張ろうというものになっています。</p>
委員	<p>その前の89ページのところで、例えば地域子育て支援拠点事業の川中・勝山を見ますと、延べ利用人数が3,846人となっていますね。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>これは現状の数字です。</p>
委員	<p>第1期計画の令和元年度確保方策というのは、令和元年度だけで21,600人ということですか。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>第1期にこれだけ利用定員としてキャパを用意しようというもので、3,846人が現状で来られたということです。</p>
委員	<p>キャパが21,600人ということなんですね。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>目標としていたということなんですけど、次はどうなるかという、90ページの川中・勝山の欄で令和6年度を見ていただくと確保の内容として14,803を目標にしています。21,600が大きかったということですよ。</p>

委員	数字を見た時に、どこにもそれが重なってきていないので。
岡崎子育て政策課主査	延べ利用人数なので、年間でもし300日くらい開いている場所であれば、1日何十人という計算でこれくらいになります。
委員	わかりました。 私もはっきりわかりませんが、ロタウィルスの予防接種が無料になるとか。そういう話を聞いたのですが、下関市は半額補助なのですね。
金子健康推進課課長補佐	保健部健康推進課の金子と申します。お世話になります。 今、予防接種のロタウィルスの件でご質問がありましたが、この10月1日から国がロタウィルスワクチンの定期接種化ということで、無料で受けられるようになりました。ただそれが対象に限りがございます。今年の8月1日以降生まれの子どもさんが10月1日から受けた場合は定期接種として無料で受けることができるようになっておりますので、本市でも無料で受けることができます。10月から定期接種化の方針が国から示されておりましたので、本市といたしましても、これまでいろいろな関係者の方から費用助成の要望を受けておりましたので、前倒しをして、7月31日までにお生まれになった方に、先ほどありました半額助成を行いました。8月1日以降生まれの子どもさんからは全員無料で受けることができるようになりましたし、今年の1月から半額補助というのを定期接種化の前に前倒しをして取り組んだということでご報告させていただきます。
委員	今からはいいということなんですね。
会長	ありがとうございます。今回もたくさんのご意見がいただけて、皆さん方の下関市に対する志というか、こうなったらいいなという気持ちをお聞きできて、さらに次の施策なり何か話し合いの時に生かしていただけることが大事なのではないかと思いました。共に良い下関を作っていくと思っています。以上で議題については終了しましたので、続いて次回の審議会について、事務局からお願いします。
事務局 (大谷補佐)	それでは次回の審議会の開催時期についてですが、2月を予定しております。時期が近づきましたらご案内いたします。今は比較的落ち着いておりますが、コロナの関係で書面会議に変更する等があるかもしれませんので、その際にご協力をお願いいたします。
会長	本日はこれで終了です。長い時間ありがとうございました。